

佐賀県研究成果情報

ニホンナシ「王秋」の果実重と果実品質との関係					
[要約] ニホンナシ「王秋」は果実重が重い果実ほど糖度が高く、硬度が低い。ただし、700 g以上の果実では果肉褐変症状の発生が多い。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当				連絡先	0952-73-2275
部会名	果	樹	専	門	栽
					培
				対	象
					ナ
					シ

[背景・ねらい]

現在、九州各県において導入が進んでいるニホンナシの新品種である「王秋」について花芽の着生が良く、高収量が期待できる反面、着果過多で小玉果、品質の低下が懸念される。そこで、果実重と品質との関係を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 果実重が重い果実ほど糖度が高く、果肉硬度は低い(表1, 図1)。
2. pH、果形は果実重の違いによる差が見られない(表1)。
3. 果実重 700g 以上では果肉褐変症状の発生が多くなる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 花芽着生は良好であるが 10 果 / m²程度とし、600 ~ 700g の果実重の生産に心掛ける。
2. 着果過多の場合は主枝、亜主枝の先端より枯れ込み、徒長枝が多発し、樹勢が低下する。
3. 摘果は満開後 40 日頃までに終了する。
4. 腋花芽に着果した果実は腰高となり、変形しやすいため出来るだけ着果させない。

[具体的データ]

表1 「王秋」果実の品質調査（場内植栽 14 年生 1 樹）

調査区	一果平均重(g)	硬度(lbs)	糖度(Brix)	pH	種子数	変形指数 ^{a)}
300 ~ 400g	365.3c	5.2a	11.1b	4.72	7.6	1.06
500 ~ 600g	546.3b	4.2b	12.6a	4.59	6.7	1.06
600 ~ 700g	652.0a	3.8b	12.9a	4.65	7.8	1.05
有意性 b)	**	**	**	n.s.	n.s.	n.s.

注) a) 長横径 / 短横径

b) **は 1%水準で有意差あり、表中の a ~ c は異なる文字間で有意差あり。
平成 16 年 10 月 14 日に収穫し調査を行った。

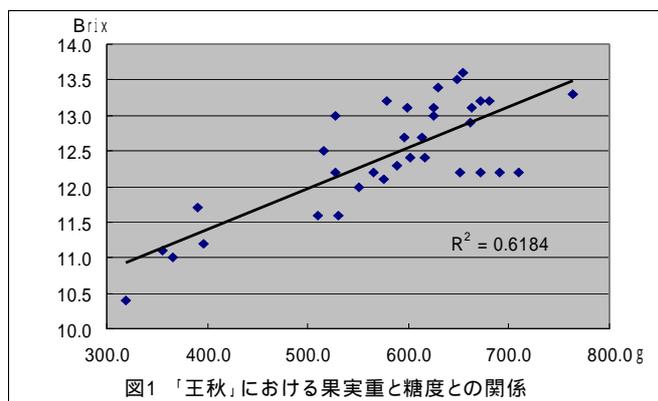


表2 王秋の果実重別果肉褐変症状の発生程度別割合

果実重	発生指数別割合 ¹⁾				重症果率 ²⁾
	0	1	2	3	
300 ~ 400g	100.0 %	0.0	0.0	0.0	0.0 %
~ 500	92.0	8.0	0.0	0.0	0.0
~ 600	86.0	8.0	6.0	0.0	6.0
~ 700	90.0	6.0	4.0	0.0	4.0
~ 800	60.0	25.0	10.0	5.0	15.0

1) 発生無し 0 3 甚 2) 発生指数 2 以上

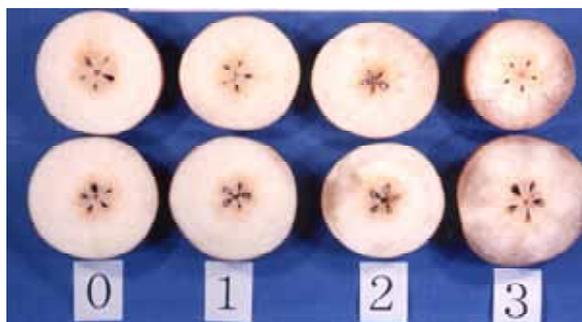


図2 ナシの果肉褐変症状の発生指数

[その他]

研究課題名：中生ナシ新品種の栽培技術開発による新出荷体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2002 ~ 2007 年度

研究担当者：稲富和弘、福田浩幸、前山美和